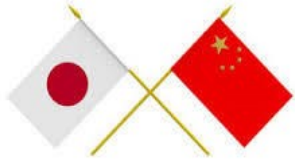


静岡英和学院大学 英和ユニバース (学報)

EIWA UNIVERSE

中国浙江省への短期留学

～悩むより行動した方が今までにない価値観が生まれるはず！～



昨年の夏休み、2週間の中国浙江省短期留学事業に参加し、浙江工商大学へ留学しました。留学中、午前には中国語の勉強、午後は様々な文化体験講座を行い、日本語を学んでいる学生と授業を受けたりしました。放課後は学生が様々な場所へ案内してくれ、飽きることはありませんでした。大学は全寮制で、周辺的生活区に日用品や食べ物はすべて揃っていて、「学生の町」という感じで羨ましかったです。先生方も近くに住んでいて一緒に遊び、昼に食事に行くのが日常的でアットホーム感を感じました。

杭州の料理は日本と味が似ていましたが、食べ物の種類が多かったため、毎日違う料理を食べることを心がけ、中国の食文化を楽しみました。休日には観光地、西湖や河坊街へ行き、バス、タクシー、地下鉄の乗り方やレストランでの注文の仕方、本屋さんの様子からトイレの使い方まで、何から何まで異なる文化の違いを肌で感じ、中国人のコミュニケーション能力の高さや相手と交渉する力など、日本人より優れた部分は見習うべき所だと感じました。

そして杭州にある宋時代を再現した遊園地へ行き、古典芸能や芸術美を味わいました。夜はみんなで言葉を書き、千島湖に向けてランタンを飛ばしました。明かりを灯しながら飛んでいく光景はとてもきれいで、杭州で過ごした最後の忘れられない大切な時間となりました。最終日で訪れた上海は様々な国籍の人が観光で溢れ、国際観光都市だと感じました。

今回の留学は静岡県庁が主催した関係で、事前の県庁訪問や現地でお世話になった県庁の方、上海支局の方、浙江省の大学関係者の方々が出席された懇談会にも参加しました。友好都市交流を目的に、今後どのように文化交流をしていくべきか考える貴重な経験にもなりました。

現地の方々はとても親切に対応してくれ、留学生活で困ることはありませんでした。授業は日本語で行われ、日本語専攻の学生が付いてくれたため、言語の壁を感じることもなく負担も少なかったです。分からないことはすぐに聞ける環境は利点とも言えます。

私は留学を大学入学時から決めていた訳ではありませんが、2年時に大学で中国の友人ができ、中国語を1年間履修したことで中国に興味をもちました。発音の綺麗さにも魅了されました。中国語検定も受験して合格したこともあり、何かと縁のある今回の留学を決めました。

「悩むより行動した方が今までにない価値観が生まれるはず」そう思うようになったのは大学生活を送る中で自分にしかできない事を価値をもって成し遂げたいと思うようになったからでした。ほんの少しの勇気と冒険心を持ち、決めたら全力で楽しむことが自分を変える一歩です。何かをした、自分を変えたいと思う人は、こういった留学もとても良い経験になると思います。(人間社会学科3年 鈴木彩香)



目次

1. 中国浙江省短期留学
2. 学長あいさつ
3. 宗教委員会より
3. ボランティアセンターより
4. 学科NEWS
5. 学科NEWS
6. キャリア支援課より
7. 学務課より
- 6-7. 留学生センターより
8. 後援会より
8. 総務課より



自らの立ち位置に自覚を

何ごとに対しても自分の責任
として向き合うことが大切

学長 武藤 元昭



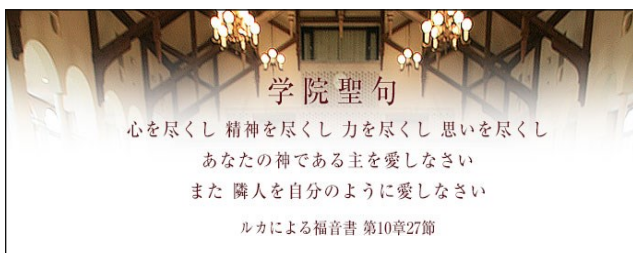
神の導きによって本学に赴任して、3月で6年5ヶ月となります。そこで任期満了となって本学での私の仕事は終わります。

自らの力不足を棚に上げて言えば、甚だ恵まれた月日でありました。大学の前身の短期大学の学長であられた大曾根先生が大学創設に当たって掲げられたUniversity Identityは

- ・キリスト教精神に基づく人間教育
- ・小規模ながら個性をもった大学
- ・地域社会に貢献する大学
- ・学問研究・教育の一体化

というものでありました。それから13年余りが経っていますが、これらはしっかり本学に根付いていると思います。私もまたこのことを念頭に置いて仕事をしてきたつもりです。

勿論満足感だけで終わったわけではありません。変動の激しいこの時代にあって、大学も変えるべきところは変えなければいけないのですが、その点至らなかった事は大いに反省しています。申し訳ないとも思っています。教職員諸氏、学生諸君が協力してこの大学の方向性を確認し、困難なこの時代を乗切って行って下さればと思います。



困難な、と言いましたのは、私の目から見てこのところの世の中の動きが穏やかでないと感じるからです。お互いに自分の意見を述べ、他人の意見に耳を傾けるのが人間社会のルールだと思うのですが、必ずしもそうになっていないのではと思われ、されることが最近多いように思われます。

こうした動きに対して、特に学生諸君には敏感になってもらいたいと思います。社会の情勢に関心で、自分のやりたいことだけに日々を過ごしていると、いつの間にか取り返しのつかない事態になっているかも知れません。要は、何事に対しても自分の責任として向き合うことが大切だということです。何もしないで結果だけに不満を言っても、始まりません。手遅れになるかも知れません。自らしっかり自分の立ち位置を確かめることが必要だと思います。

その点に関して言えば、こういう時にこそ皆さんがこの大学に在学していることを思い出してもらいたいのです。「キリスト教精神に基づく人間教育」をこの大学が行っているという事実です。学内の色々な所に学院聖句や大学聖句が掲げられているのを目にしていると思います。こういうものはいったい無造作に見過ごしてしまい勝ちですが、是非一度しっかり読み直して下さい。神を愛し、隣人を愛することが、この大学にいる上で一番大切なことです。これがなければ他の大学と変わりません。少なくとも、この大学での1年間の礼拝出席は他の大学では味わえない貴重な経験だった筈です。これこそ静岡英和学院大学が他の大学と差別化される所以だと思います。

静岡は温暖で住み良い町です。人間も温和です。この町に建つ本学も同様です。そこに更に神の愛が注がれているのですから、皆さん大いに自覚を以て過ごして下さい。

2015年度静岡英和学院大学のクリスマス

「愛！」が、2015年度の英和大学の宗教テーマでした。この1年、1年生は「キリスト教の愛とは何か」をリトリートから始まって、毎週の礼拝やキリスト教の授業やキリスト教の行事を通して感じてもらえたのではないのでしょうか？

さて、クリスマス行事の報告ですが、後期が始まってすぐに、クリスマス行事の準備を始めました。第7回目となるクリスマスカードコンテストには約100枚の応募があり、最優秀賞者は現代コミュニケーション学科2年の紅林亜香里さんでした。今年はクリスマス大好き隊を募り、彼らを中心に11月29日のアドベント（待降節）前後にクリスマスツリーの設置やイルミネーションの点灯、校内のクリスマスの飾り付け等が次々になされていきました。12月12日に行われたオープンキャンパスでもクリスマス企画があり、エンターティナーサークルの協力の下、楽しくイベントがなされ、来校した高校生達と共にキャンドルサービスも出来、感謝でした。第10回ワンコイン・クリスマス・コンサートも例年どおり12月の最初の一週間、新館一階にて行われ、演奏やダンスなどのパフォーマンスをする者も、集まってくれた学生や職員たちも楽しい昼休みの一時を過ごすことが出来ました。



12月17日にはクリスマス礼拝が行われました。照明をおとした新館5階講堂内において聖歌隊の賛美の音が響き、いつもの礼拝とは違う雰囲気になりました。4名の点火係の学生によりキャンドルに火が点され、学生2名による聖書朗読の後、伊勢田奈緒牧師による「愛に訴えて」と題する話がありました。フィレモンへの手紙を通して「・・・わたしたちは神様から

みれば、罪人であり、そのことは赦される者ではないということだが神様はそのような私たちが大きな愛によって赦し、和解へと入れてくださった。キリス



ト教の教えようとする「赦し」は、愛に訴えての「赦し」であること、そしてその愛を示されているのがイエス様である・・・という内容でした。

礼拝後、第四代目 I S E D A 劇団による「若草物語ー I S E D A 劇団版」（伊勢田奈緒脚本・演出）が上演されました。今回は前回よりも出演者が多く練習時間もとれず、大変でしたが各々がベストを尽くして演じてくれました。劇終了後、クリスマス献金が献げられ、全員でクリスマスの讃美歌を歌い、祝福がありました。午後6時からはW303にてキャンドルサービスとクリスマス会がありました。キャンドルの灯りの下、1年を振り返りつつ、神聖な雰囲気の中、礼拝が行われました。クリスマス会の最大の盛り上がりは学長によるクリスマスケーキに立てられたロウソクを吹き消すイベントでした。皆、学長の周りに集まり、大拍手。クリスマスの盛りだくさんのごちそうを食べつつ、授業では聞けない先生方の話や、学年を越えた学生たちの語らいやら、本当に和やかで幸せな時を学生、教職員と共に過ごすことができました。今年も多くの学生の協力により、アットホームで、主イエスの教えておられる「愛」にあふれた静岡英和学院大学ならではのクリスマス行事を行うことができました。感謝。

（宗教 伊勢田）



「こどもみらいプロジェクト」に参加しました。

10月10日（土）・11日（日）、毎年ツインメッセ静岡で開催されている子ども&親子向けイベント『こどもみらいプロジェクト』（主催：静岡新聞社・静岡放送）に、英和生がボランティアスタッフで参加させて頂きました。



会場は親子連れで大にぎわい。運営の協力スタッフとして参加してくれた5名の学生は、めくってドン！や、見つけてワオ！や、4つのゲームをクリアした際の水風船ヨーヨーを渡す担当や、新聞プールをそれぞれ担当し、他大学の学生さんたちと一緒にイベントを支えてくれました！

見つけてワオ！（YOMO【よも】っと間違いがし）・めくってドン！（番組やアナウンサーの顔で神経衰弱）・ゴール（4つのゲームをク



リアしたら水風船のヨーヨーがもらえる）・新聞プールでは、学生が「ニンニンジャー」のお面を被って子どもたちから大人気でした！学生は汗びっしょりになりながら子どもたちの相手をしていました。

今回はシフトがゴチャゴチャし、大変な事も多々あったみたいですが、たくさん子どもたちが絶えず寄ってきてくれて、対応する学生は大忙しでした。学生の皆さんにとっては座学では学べない沢山のことを学び感じる事ができたのではないのでしょうか？ご来場下さった皆様、有難うございました。今回、参加して下さいましたボランティアの学生の皆さん、お疲れ様でした。（ボランティアセンター 橋本）



今回の学科ニュースでは、記念すべき10回目を迎えた「心理メジャー卒業研究発表会」についての報告をいたします。大学生は卒業年次に「卒業研究」に取り組みますが、心理メジャーでは卒業研究の一環として「卒業研究発表会」を毎年開催しております。



2006年から10年間の最初の3年間はグランシップにおいて、4年目からは本学の新館1階ラウンジにおいて開催しています。もともと「心理メジャーで、卒業研究の記念となる、学生たちが、それを具体的な達成目標として、研究に奮起する

心理メジャー卒業研究発表会

ようなイベントを作りたい」という心理メジャー教員の想いから始まりましたが、この想いは今でも変わりません。むしろ、学生側も「これは心理メジャーの伝統行事であり、自分たちもこの伝統に参加する」という想いがしっかりと定着した分だけ、参加者全体の総量としては想いは強くなったのではないのでしょうか？

発表会では、4年生が、主な聴講生である3年生に対して、ポスターと口頭説明により、自分の卒業研究の内容を聴講者に伝えます。3年生は2～3人のグループで発表を聞くようになっているので、発表者からすると、異なる3年生グループが、6回、自分の発表を聞きに来ます。いずれの学生

も、繰り返すうちにスムーズな説明になっており、また、聴講生との質疑応答を通して、自分の卒業研究を客観視できるようになります。



ここ数年では、心理メジャーの3～4年生だけではなく、2年生も自主的に参加するようになってきています。心理メジャーでは、引き続きこの発表会を静岡英和学院大学の伝統とし今後も盛り上げていきます。なお、大学のFacebookにて、発表会の動画を掲載した記事がありますので、合わせてご覧下さい。(人間社会 林)

「青少年のための科学の祭典」静岡大会

8月15日と16日に静岡科学館る・く・るで青少年のための科学の祭典が開かれました。この祭典に、日本心理学会教育研究委員会・博物館小委員会としてブース展示を行いました。日本心理学会の事務局の方が各日1名、委員会のメンバーの先生が私以外に1日目は2名、2日目は1名も参加しましたが、基本的には私のゼミの学生9名(鈴木唯加さん、徳増芽生さん、中田ももかさん、中村有希さん、深田皆実さん、松下瑛映さん、村瀬亜矢子さん、望月里紗さん、山田阿紀さん)が2日間ブースを運営しました。

展示内容は4つでした。のうち3つは「何かを好きになること」を科学するもので、残りの1つは、ゴムの手が自分の手のように感じてしまうラバーハンドイリュージョンを体験するものでした。好きの科学の方は、パソコンを使い、よく目にするものが好きになってしまう単純接触効果や瞳の大きい人を好きになってしまう現象、赤い服をきた男の子がモテる現象などを体験するものでした。



このブース展示は、科学的な心理学を一般の人たちに分かりやすく伝え、一緒に楽しもうというサイエンスコミュニケーションの一つです。ゼミ生たちは心理学ゼミ活動の一環として参加しました。来場された子どもやそのお父さん、お母さん、またはおじいちゃん、おばあちゃんに体験を促し、体験後に丁寧に説明を行いました。2日とも盛況で、ゼミ生たちは、人に何かを説明したり、一緒に疑問に思ったことを考えたり、体験的にサイエンスコミュニケーションを学ぶとてもよい機会を得ました。(現コミ 重森)

インターンシップでの貴重な経験



1年生6名が前期の定期試験終了後の9月に、5日間の日程でインターンシップ履修生として希望する食品関連企業で研修を行いました。本年度から、展開科目として1単位が認定されることから、初回の履修ガイダンスを受講後、希望する職種の企業を学生自ら積極的に決めていました。学生には初めての経験であるため、キャリア支援課スタッフによる受け入れ先企業への履歴書の書き方や電話連絡についての個別指導を受けて研修が始まりました。

本年度はモンパルナス、たこ満掛川本店、遠鉄ストア向宿店、遠鉄ストア掛川中央店と遠鉄ストア竜洋店で研修を受けました。インターンシップ制度を理解して頂いての企業の協力による就業体験であり、教育的配慮のある指導を受けることができ、短い日数の中で様々な業務を体験することができたようです。10月23日のキャリアデザイン演習の中で報告会が行われ、各自スライドを製作、研修での業務内容や成果について、明快に説明して、貴重な経験であったことを発表することが

できました。温かく優しい職場の雰囲気を感じて仕事に励みながら、食品を扱う上での徹底した衛生管理を知り、大学での講義と実習内容をしっかりと理解することの大切さを実感したようです。企業での実務を体験したことにより仕事のイメージが明確になり、将来の進路を決める上での貴重な経験であったことが理解できました。受け入れ先企業様の配慮に感謝致しますと共に、このインターンシップを活用して多くの学生が社会での適応力を磨いていって欲しいと思いました。(食物 佐々)

社会福祉士国家試験



2016年1月24日（日）に第28回社会福祉士国家試験が行われ、今回は本学から13名の受験生が受験しました。他

大学に比べ受験生は少ないのですが、毎年“本当に社会福祉士になりたい”という学生が受験に挑戦しています。過去2年、合格率が50%を越え、静岡県内で1位となることができました。高校3年生の中には、この成果を見て本学への入学を希望した人もいと聞きます。

__今年も4月から継続的に対策講座や模擬試験を受け、合格に向けて勉強を重ねてきました（発表は3月15日）。2015年4月には生活困窮者自立支援法が施行され、介護保険法の大幅な改正も行われました。社会福祉に関する法改正はめまぐるしく、1年生の時に学んだ法律が、4年生の時には大幅に変更されているということも少なくありません。毎年、新たな法律ができるため、教員からみると受験生は覚えるべき内容が増え大変だ、と思うのですが、福祉現場で働く職員は、法改正に合わせて援助を行うのですから、そうもいってられません。受験生には、ただ物事を覚えるだけではなく、法律のねらいやそれによって福祉現場にどのように影響があるのかといったことにも思いを巡らせながら勉強してほしいと思います。

__社会福祉士の国家試験は合格率3割という厳しい試験ですが、受験勉強の過程で得られるものも少なくありません。今回受験した学



生もきっと1年間を通して勉強した成果として、知識以外の何かを身につけたのではないかと思います。自分の努力を自信に変えて、社会福祉を学んだものとして、社会に羽ばたいていってほしいと思います。

(コミ福 岡部)

県内初のスクールソーシャルワーカー(SSW)教育課程誕生

昨年11月、日本社会福祉士養成校協会より本学コミュニティ福祉学科が県内初のスクールソーシャルワーカー(SSW)の養成校として認定を受けました。本年4月からSSW指定科目の授業・実習がスタートし、社会福祉士養成課程の学生の多くがSSW資格の取得を目指します。なお、SSW養成校の認定については新聞社からも取材を受け、静岡新聞

(2015年12月4日朝刊)や中日新聞(2015年12月9日朝刊)に記事が掲載されました。



__SSWの仕事は、社会福祉士の人を取り巻く環境の調整という専門的支援の手法が学校現場にも広がったものです。例えば、ひとり親家庭に対しての児童扶養手当、母子父子寡婦福祉資金貸付制度や高等技能訓練促進費等の情報提供、家庭内のDVがあれば緊急避難先、障害のある生徒の場合、障害者手帳の取得支援や就労支援等、現行の福祉制度・サービスに適切につないでいく役割があります。また、本人や家族にとって必要なサービスが現行制度にない場合、新たにサービスを作り上げていく役割も担っています。

__このようにSSWは、専門的な知識や技術が必要であるにも関わらず、従来より教員のOB等が任用されるケースが多く、質の確保が大きな課題になっていました。こうしたことから社会福祉士の養成校に人材の育成が社会的に要請されてきたのは時代の流れと言えるでしょう。

__2015年11月現在、県内では静岡、浜松の政令市で41人のSSWが任用されています。全国的には2000人に満たず、2014年8月に内閣で閣議決定された2019年までに1万人を配置するという目標からは程遠い現状となっており、養成は急務となっています。

__SSW資格を取得するためには、社会福祉士の国家試験に合格し、かつSSW養成校で指定科目の単位を取得していくことが前提条件となります。コミュニティ福祉学科では時代の要請に応えるべく優秀なSSWを現場に送り出していきよう、より一層の教育内容の充実に努めていく所存です。(コミ福 高阪)

子育てぱぱママ広場 みんなであちよぼ



今年で「あちよぼ」が始まって丸5年になりました。「子育てぱぱママ広場みんなであちよぼ」と名称をリニューアルし新しい取組みを企画しています。うれしいことに様々に本学の子育て広場が認知されてきています。

__9月には「静岡県おしえてあなたの応援隊」団体部門人気投票第1位になり、学生代表として、増野春維さんが知事より表彰していただきました。

__また、1月の「静岡県民会議」には、「あちよぼ」や「少子化対策」を学んだ代表として、夏目侑季さんが「少子化対策には男性の日常的積極的協力が必要である」と発言してきました。これには、議長も知事も苦笑いだったそうです。さすが、「あちよぼ」で保護者と関わってきた意見です。

__このように「あちよぼ」は学生たちの子育て実践力の強化にも繋がっています。これからも、学生たちの力を静岡県にアピールしていきたいと思っています。(コミ福 永田)



「保護者ができる就職支援セミナー」の開催

1 概要

今年度、初めての試みとして、保護者の力を借りて保護者と共に学生を支援するため、「**保護者ができる就職支援セミナー**」を第1回9月5日と第2回2月6日の2回、本学新館講堂で開催しました。

2 目的

就職活動は、保護者世代が経験したものと現在では社会・経済状況や活動・選考方法に大きな違いがあります。保護者が適切なアドバイスをするためには、昨今の就職状況や就職活動、本学のキャリア支援・就職支援について知ってもらい、学生の就職活動への関わり方を理解してもらうことが必要であり、「**絶対内定**」には**保護者の理解と協力が不可欠**です。

3 内容

①**本学が行っている就職支援、キャリア教育の概要の説明**、②**就職活動の現状、学生との接し方や保護者ができる具体的なアドバイスなどの講演**、そして質疑応答を行いました。

(講師は聖徳大学専任講師(キャリア教育担当)

__天川勝志氏)

第1回 講演

- ①就職活動の現状をご存知ですか
- ②就職活動において問われること
- ③就職活動を向かえるお子様との接し方



第2回 講演

- ①全般的な就活トレンド
- ②この時期の保護者として知っておくべきこと、やっていただきたいこと
- ③履歴書・エントリーシート作成時アドバイスポイント
- ④内定辞退について

セミナーの参加者は、第1回、2回合計で105組126名となり、参加者アンケートでは、「**子どもの就職活動を真剣に考える良い機会になった**」「**現在の就活のスケジュール、システム、ポイントが参考になった**」等の意見が寄せられた。**__次回は、9月2日と2月4日に開催を予定している。**

4 2017年度の就職活動の見通し

__来年度は就職活動の長期化や内定辞退の増加などの影響を考慮し、情報解禁は3月からと変更はないが**選考開始が8月から6月へと2ヶ月早まりました**。そのため、情報解禁から選考開始までの期間が短くなったことにより、**選考開始までの事前準備がいっそう重要**になります。

__2月15日からフォロー講座として、SPI・筆記試験対策、文章力アップ講座、直前！就職活動特別講座を開講します。**本番直前には必ず参加して欲しい講座**です。自己分析、業界・業種・企業研究、筆記試験対策、面接対策など、十分な準備が「**絶対内定**」の**前提条件**となりました。**早め早めの対応が内定への王道**です。

(キャリア支援課 鷲山)



留学生だより

御前崎市ホームステイに行ってきました！

ふじのくに留学生親善大使の活動 ～アース(明日)カレッジの講師～

10月3日(土)、静岡県民との交流を深めるイベント「アース(明日)カレッジ2015」が静岡市葵生涯学習センター(アイセル21)で開催され、本学のベトナム、ミャンマー、中国のふじのくに留学生親善大使6名が「お茶を飲みながら留学生と交流しよう」講座の講師をつとめました。イベントにはたくさんの方々が登場され、本学のふじのくに留学生親善大使たちが母国文化を紹介し、来場者との友好を深めました。



12月12日(土)・13日(日)の2日間、本学の中国、ベトナム、韓国、ネパールの留学生計5名が、御前崎市にホームステイに行ってきました。御前崎の美しい自然を満喫しながら日本の家庭の温かい雰囲気を肌で感じることができました。



正福寺で住職からお釈迦様についての話をいただき座禅体験もし、日本の文化をたくさん学ぶことができました。また、ホストファミリーと一緒に自国の料理を作ったりしてみんなで楽しい交流をして良い思い出になりました。ご協力くださった御前崎市国際交流協会、そしてホストファミリーの方々、本当にありがとうございました。



コラム「学務課から見える世界」

学務課には日々様々な落とし物も届けられます。1日に2～3台のスマートフォンの落とし物が届けられることがあります。また、時には1週間に3つも財布の落とし物が届けられることがあります。そして、1年間を通して、同じ人が何度も同じ落とし物をしていくことがあります。一概に本人の不注意とは言えませんが、ここ数年落とし物が増えてきている印象を受けます。

__その理由の1つにスマートフォンの普及が上げられるのではないのでしょうか。学内の教室やラウンジ・廊下などあらゆる所でスマートフォンを充電している光景が見受けられます。充電したままその場所を離れ、落とし物として届けられるケースも少なくありません。また、充電していたことを本人が忘れてしまっていることもあります。大学として携帯電話の充電を禁止していないので、規則に違反しているわけではありません。しかしながら、決して好ましい光景とは言えません。

__大学内も公共の場です。公共の場で個人のスマートフォンの充電をする。大学として禁止していない以上、一人ひとりのモラルが問われる問題であると感じます。

__モラルとは、社会に生きていくうえで基礎となる、善悪の判断力や主体的な態度のことをいいます。英和学院大学の学生の肩書きは大学生・短大生です。しかし、選挙権年齢の引き下げでもわかるように、すでに子供とは見なされません。自己に責任を持つ大人と言えるでしょ



う。そうである以上、公共の場で生活をしていくルールやマナーにはモラルを持って対応すべきことではないでしょうか。



__今回はスマートフォンの落とし物から充電について例にあげましたが、スマートフォンの普及により、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス、Twitter・Facebook・Lineなど）での安易な投稿や書き込みによる学内外からの厳しいご指摘・ご意見が寄せられることも年間を通して数件あります。実際にご意見が寄せられるまで行くことが稀であり、同様のことは日常茶飯事ではないかとも思われます。これについては情報モラルの問題で、情報社会を生きぬき、健全に発展させていく上で、身につけておくべき考え方や態度があるのではないのでしょうか。

__SNSによる情報の発信力は果てしない力を持っています。一度発信してしまえば取り返しのつかないことに成りかねません。だからこそ情報を正しく健全に取り扱う必要があります。

__年間を通して大学へは、バス乗車や車内でのマナーに関すること・無断駐車に関することなど複数のご意見も寄せられてきます。英和学院大学に関わる皆さんそれぞれが、しっかりとしたモラルをもって生活することで、少なからず今よりもより良い環境となっていくことを願っております。

__次回の学務課からの記事では、学内に寄せられた感謝の報告が出来ればと思っています。(学務課 森)

「留学生との交流会」を開催

地域の方々との交流を深めることを目的として年1回開催する「留学生との交流会」を、1月16日(土)に新館1階のラウンジで開催しました。今年も80名以上の方々が登場され、盛大に行うことができました。交流会では、静岡浅間木遣保存会の方々によるオープニングの木遣りを披露していただき、来場者は迫力のある力強い歌声に圧倒されました。後半では、

参加者全員で輪になってネパール民族舞踊を踊り、会場がたいへん盛り上がりました。交流会は終始楽しいムードに包まれて、留学生と地域の方々との絆を深めることができました。



中国浙江省短期留学報告発表会

12月2日(水)チャペル終了後、本学講堂で中国浙江省短期留学報告発表会を行いました。2015年9月に2週間に渡って中国の浙江工商大学に短期留学した鈴木彩香さん(人間社会学科3年、本誌1ページ参照)に短期留学体験談を語っていただきました。会場からは大きな拍手をいただきました。彩香さんの率直な気持ちと前向きな姿は学生たちに伝わったことでしょう。来年度の短期留学は是非多くの学生に体験してほしいです。(留セン 鈴木)



奥村愛ヴァイオリンコンサート ～後援会～



これまでの開催実績

- 第1回 静岡交響楽団
- 第2回 稲村なおこ
- 第3回 ビリーバンバン
- 第4回 しゅうさえこ
- 第5回 井上あずみ
- 第6回 中島啓江
- 第7回 錦織健
- 第8回 青島広志
- 第9回 一村誠也

2月7日(日)、新館5F講堂において、大学後援会主催によるコンサートが開催されました。

__今回でコンサートも10回目を迎えますが、中には「毎年このコンサートを楽しみにしている」と声をかけてくださる方もいて、ありがたいお言葉に我々スタッフも顔がほころびます。会場には2時間も前からお客様が続々と来場され、早く来てくださった方にはなるべく良い席に座ってもらおうと受付の方々も大忙し。

__さて、コンサートはパッヘルベルの「カノン」から始まり、エルガーの「愛のあいさつ」へと、タイトルだけ聞いてもピンと来なくても、曲を聞けば多くの人々が一度は聞いたことのある楽曲からスタートします。ヴァイオリンとピアノの織りなす美しい音色に観客は徐々に魅了されていき、会場が一体化していくのが分かります。

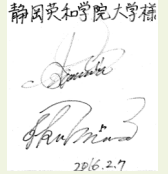
__曲と曲との間にはちょっとしたお話も聞け、退場する途中で拍手が止んでしまうと寂しいという話では会場から笑いを誘い、富士山は何回見ても感

動するという話では静岡県民の心を掴みま

した。
__後半は出演者も好きだという映画の曲などが弾かれ、盛大な拍手の後のアンコールには皆さんが笑顔になれるように「スマイル」の曲が選ばれ、惜しまれながらも最後の幕を閉じました。

__当日お忙しいながらもご協力いただいた後援会役員の皆様には心から感謝申し上げます。

(後援会 安達)



2016年度学納金の納付書発送および納入期限について ～総務課～

	前 期 ※1	後 期 ※1
納付書発送時期	2016年4月上旬頃	2016年9月上旬頃
納入期限 ※2	2016年4月25日(月)	2016年10月3日(月)



※1 学納金は、前期と後期の2期に分けて徴収します。

但し、新入生(1年生・3年次編入生)の前期分は、入学手続き時に徴収済みです。

※2 家庭の事情等により期限内の納入が困難な場合は、学務課(Tel:264-8874)までご相談ください。分納や延納の手続きも可能です(別途手数料がかかります)。



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545
静岡市駿河区池田1769
TEL 054-261-9201
FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>
info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会